

環境保全活動

環境への負荷を低減することは、事業活動を持続的に発展させるために不可欠な取り組みです。荒川化学グループではそのことを最優先課題として認識し、一丸となって取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

さまざまな施策によって省エネルギーなどを推進し、CO₂発生削減を進めました。

生産活動における燃料の燃焼などエネルギー消費に伴い地球温暖化ガスのCO₂が排出されます。そのため、省エネルギーなどの実施によりCO₂排出量の削減に努めました。

2010年度はCO₂排出量削減のため、富士工場で燃料をLPGからCO₂発生量の少ない都市ガスへ転換しました。これは、環境省のJVETS(自主参加型国内排出量取引制度)の参加事業です(P.31参照)。

省エネルギー機器(高効率照明、インバーターなど)の導入、エネルギーの無駄排除(蒸気配管の管理強化、ボイラーの運転管理徹底、建屋断熱化による暖房燃料削減)などを推進しましたが、2008年度の世界的不況で減少した生産量が十分回復していないため、単位生産量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は2007年度比で8.9%増加し原単位削減目標(3%減少)を達成できませんでした。

CO₂排出量は3.9%減で、2010年度目標(2007年度比3%減)を達成することができました。

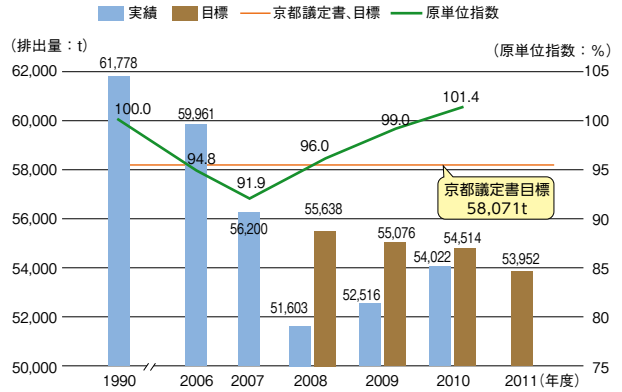
これは、上記取り組みに加えて2007年度比で生産量が減少したことが要因です。

●今後の取り組み

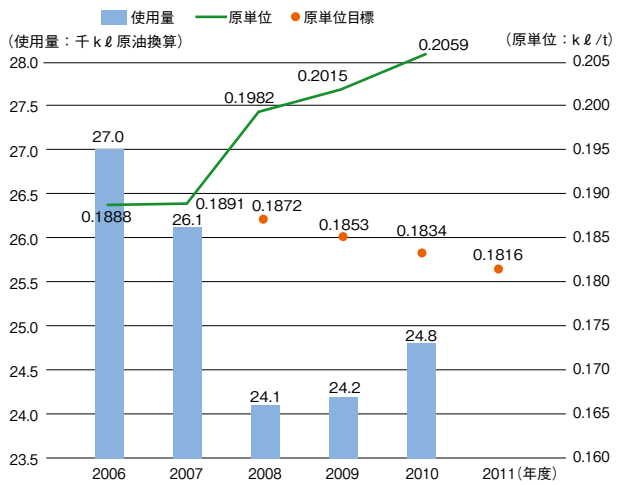
- ・CO₂削減目標は、2011年度は2007年度比4%削減とします。
- ・CO₂排出量削減、省エネルギーに向け不断の努力を続けていきます。

・植物由来のロジンから製造中に副生する油を燃料として使うことを徹底し、再生可能エネルギーを活用していきます。

■CO₂排出量の推移



■エネルギー使用量の推移



VOICE

JVETS(自主参加型国内排出量取引制度)に参加して

富士工場ではISO14001活動の一環として、2010年5月にJVETS(ジェイベッツ: Japan's Voluntary Emissions Trading Scheme)に参加しました。JVETSとは国内の温室効果ガスの確実な削減とキャップ・アンド・トレード方式による国内排出量取引制度に関する知見・経験の蓄積を目的として、環境省が始めた制度で、温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者に対し、一定量の排出削減約束と引き換えに省エネルギーなどによるCO₂排出抑制設備の整備に対して事業費の1/3の補助金が交付支援される制度です。

当工場はLPGから都市ガスへの燃焼転換をおこなうとともに小型貫流ボイラーの更新及び事務棟内の給湯設備をヒートポンプ方式へ更新しました。

手続きとしては、申請後環境省からの採択を受け、第三者検証機関による検証を踏まえて当工場の排出初期割当量を確定します。2011年度は設備導入後の削減対策実施期間で、1年間の活動実績から来年度のCO₂排出量の検証がおこなわれます。

目標となるCO₂削減を達成できるよう導入した小型貫流ボイラー他設備の安定稼働に取り組むとともに、各職場でもより一層省エネルギー活動への意識を高め、工場全体での環境活動を進めていきます。



富士工場 工務課
末廣 健一